

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽北中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 187人

② 数学 187人

5 留意事項

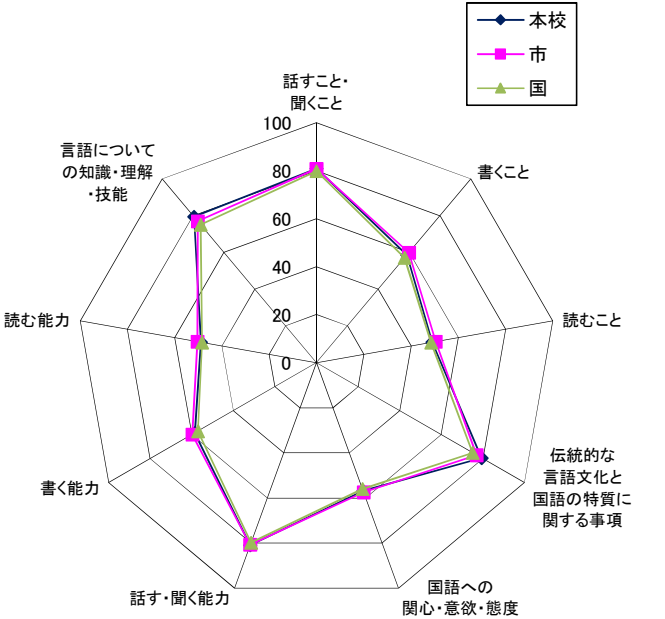
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽北中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	80.9	80.8	79.8
	書くこと	58.6	59.8	57.1
	読むこと	48.9	50.4	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.4	77.0	75.1
観点	国語への関心・意欲・態度	56.8	57.5	56.0
	話す・聞く能力	80.9	80.8	79.8
	書く能力	58.6	59.8	57.1
	読む能力	48.9	50.4	48.5
	言語についての知識・理解・技能	79.4	77.0	75.1



★指導の工夫と改善

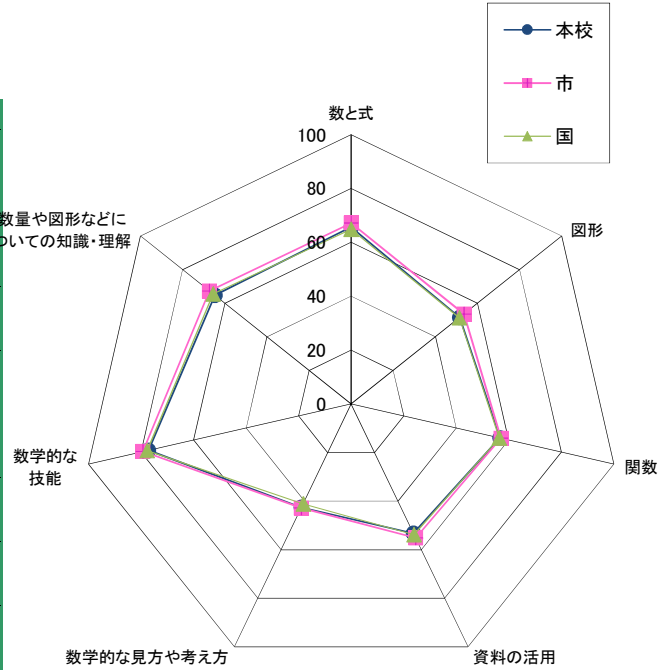
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均をやや上回り、市平均とほぼ同じである。 ○話し合いにおける方向性や発言内容の吟味ができている。 ●話し合いの話題を捉え、適切な方向に進むよう、問題点を指摘したり流れを修正したりする発言を考えることに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話し合いや発表の構成、方向性を吟味する練習を続けるとともに、進行の仕方を工夫しながら考えを深める学習活動を取り入れる。 ・互いの主張を聞いて質問したり、問題点を指摘したりする活動を通して、発言がふさわしいかどうか、またそう考える理由を具体的に言語化して説明できるようにする。
書くこと	平均正答率は、全国平均をやや上回っているが、市平均はやや下回っている。 ○文章の構成の工夫について、自分の考えを持つことができている。 ●語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、文章を読み返すことに課題が見られる。	・意見と根拠、具体例、予想される反対意見とそれに対する反論など、意見文に必要な要素とその順序について考え、実際に書く活動を継続して取り入れる。 ・「～から」「～ため」など文末表現に着目させ、根拠が書かれてある部分を明確にしたり、文や段落同士の関係について考えさせたりする活動を取り入れる。 ・読みやすく分かりやすい文章にするために、読み手の立場に立って文章を整える練習をする。
読むこと	平均正答率は、全国平均をやや上回っているが、市平均はやや下回っている。 ○文章中に使われている語句の意味を正しく理解できている。 ●文章に表れているものの見方や考え方を捉えて自分の考えをもつことに課題が見られる。	・文章に書かれてあることが、事実であるのか、話し手や書き手の考え・判断であるのかを、視点や文末表現から考える練習をする。 ・ものの見方や考え方が表れている部分に線を引いたり、抜き出したりすることで正確な読み取りに繋がるようにする。 ・文章に表れているものの見方や考え方を根拠として、自分の考えをもち、互いの考えを伝えあうことで、思考を深める活動を取り入れる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、全国平均、市平均を上回っている。 ○漢字の読み書きが正しく理解できている。 ●敬語の種類を識別したり、状況に合わせ適切な敬語に直したりすることに課題が見られる。	・漢字の読み書きを正しく行えるよう、文章中に出てきた漢字を丁寧に確認する。 ・敬語の種類を再度確認するとともに、相手や場に応じて敬語を適切に使うことができるよう、文章の登場人物と敬語の関係について吟味する練習をする。

宇都宮市立陽北中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	65.7	67.2	64.9
	図形	51.6	53.6	51.4
	関数	56.7	57.0	56.4
	資料の活用	53.3	55.1	53.8
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	42.6	42.8	41.1
	数学的な技能	77.2	79.3	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	64.8	67.4	65.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○国の正答率より0.8ポイント上回った。 ●市の正答率より1.5ポイント下回った。 ○四角で囲んだ4つの数の和が4の倍数になるかを確かめる問題では、正答率が86.6ポイントと高く、国の正答率を2.7ポイント上回った。 ●4つの数の和が、どの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する問題では、正答率は29.4ポイントと低く、国の正答率を0.9ポイント下回った。また、無回答率が31.0ポイントと高かった。	・この領域については、「文字を用いた式でとらえ説明する」ことについて大きな課題がみられた。文字を用いた式を使って、ある命題が成り立つことを説明する場面においては、文字を用いて表現したり、文字を用いた式の意味を読み取ったり、計算したりする学習を総合的に行い、克服するための改善を図っていきたい。
図形	○国の正答率より0.2ポイント上回った。 ●市の正答率より2.0ポイント下回った。 ●中心角60°の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ問題では、正答率が63.1ポイントで国の正答率を5.0ポイント下回った。また、弧の長さが円周の1/3とした誤答率が25.1ポイントと高く、国の割合を6.6ポイント上回った。	・扇形の弧の長さや面積を求めさせる際には、中心角が90°、45°と段階を設け、視覚的に円の面積から想像できるものを最初に取り扱うようにしていく。次に、90/360、45/360という割合でとらえ直し、さらに、1つの円で、中心角の大きさ、弧の長さ、おうぎ形の面積はそれぞれが比例関係になっていることをとらえさせるなど、求め方の手順を丁寧に扱いながら指導し、基礎・基本の定着を図っていきたい。
関数	○国の正答率より0.3ポイント上回った。 ●市の正答率より0.3ポイント下回った。 ○グラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかをみる問題では、94.7ポイントと高い正答率であり、市・国の数値をともに上回った。 ●問題解決の方法を数学的に説明することができるかをみる問題では、正答率が26.2ポイントと低く、市・国の割合をともに1.0ポイント程度下回った。	・関数領域の設問は、他領域と比べて正答率が低い。特に、関数的な見方・考え方を活用する問題の正答率の低さは大きな課題となっている。それを克服するため、現実的な事象の問題を「関数的な見方・考え方」を活用し解決するような指導を心がけていく。その際、「なぜ関数（比例・反比例・1次関数・2に比例する関数）とみなせたのか」、根拠を示しながら説明できるようにすることや、どのようにして問題を解決したのか、解決の手順を説明させることを大切にしていきたい。
資料の活用	●国の正答率より0.5ポイント下回った。 ●市の正答率より1.8ポイント下回った。 ○ヒストグラムから度数を読み取る問題では、正答率は84.5ポイントと高く、ともに国・市の割合を上回った。 ●データの傾向を捉え、理由を数学的な表現を用いて説明することができるかをみる問題では、正答率が13.4ポイントと低く、無回答率は32.1ポイントであった。	・ヒストグラムや代表値等を用いて資料の傾向を読み取る力を育てるために、統計ソフトの効果的な活用とともに、実社会にあるデータや生徒が傾向を捉える必要性が実感できるような資料を題材とし取り上げていく。また、生徒同士が助言し合ったり、違う視点に気づき合ったりし、考えを磨き上げやすくなるような学習形態（個別、小集団、任意小集団、学級全体）についても考察していきたい。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○朝食を食べているかや、寝る時間や起きる時間などの生活習慣は全国に比べて良好である。
●将来の夢や目標をもっているかは、全国や県に比べて低い。夢や目標に向かう姿勢をもたせるために、まずは教員がその姿勢をもって子供に接することが大切である。
○家庭学習は、県や全国に比べて計画的に行っている割合が高い。学芸委員を中心とした家庭学習の呼びかけの影響もあるのではないかと。
●自分の住んでいる地域の行事への参加は、県や全国に比べてしていないようである。学区内の歴史や行事について、伝えていく方法等が必要である。
○学級生活をよりよくするために話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているということが、県や全国に比べてできている。
○生徒の間で話し合う活動に関する肯定的回答が、県や全国に比べて高い。
○国語の授業で、自分の考えを工夫して書いたりしている割合が、県や全国に比べて10～15ポイント高い。
また、自分の考えを広めたり深めたりしている割合が、県や全国に比べて7～12ポイント高い。
●数学が好きかという質問項目の割合が、県や全国に比べて低い。大切だと思う項目の割合は高かった分、わかるようになると好きになっていくのではないかと考えられる。「わかる授業」の展開や工夫を一層すすめていく。

宇都宮市立陽北中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学力向上を目指す学習指導の改善と生徒の家庭学習の充実を図る。	学習活動と学習評価を一体化し、学習の展開を工夫し、個に応じた支援を図る。また、宿題や課題の出し方を工夫し、自主的に家庭学習に取り組む態度を強化する。	「家で自分で計画を立てて勉強している」割合が県や全国を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
文章で書くことが出来てきたが、話すことが十分ではない。自己主張をしつつ、相手の意見に質問をするなどの、考えを深める言語活動が不十分である。	書く力を基盤としながら、根拠を具体的に説明したり、問題点を指摘したり、発言力・発表力を伸ばす指導の工夫を図る。	全教科を通して、単元等の「ふり返し」を書くことを持続し、自分の意見を書くだけでなく、発表したり質問したり、「話す」ことで表現することに取り組ませる。